新発田市　令和6年度　第3回定例記者会見

１　日　時　　令和6年5月27日（月）午前11時～

２　場　所　　ヨリネスしばた501会議室

３　内　容

【市長発表項目】

〇「い～ばしょしばた」の開所

〇蔵春閣イベント「閣びらき」の開催

〇ぼうさいファミリーキャンプの実施

〇城下町新発田まつりの開催

【その他】

〇しばたあやめまつりの開催
〇座って　見て　蔵春閣ウィーク
〇カサハラケントさんと楽しむ特別版イクネスボードゲーム
〇商店街クリーン作戦の開催
〇新発田あやめ寄席「桂文珍、蝶花楼桃花　落語会」
〇手工芸・水墨画、いきいき作品展
〇ライトミュージックコンサート2024
〇市民コンサート2024

あいさつ

○日報さんには新発田のあやめを大変大きく取り上げていただいて本当にありがとうございます。来月あやめまつりが開催をされるのに非常に効果的な記事であります。実は私も、青年会議所時代の若いときに、新発田城にあやめを植える活動をしました。素人ですから、復元はできませんでしたが、記事を見て青年会議所のメンバーとして、一生懸命取り組んだ当時を思い出しました。

○あやめが咲く頃になると、最も心配なのは水害であります。溝口秀勝公がこの地を開いたときに、「馬足不叶」といわれました。沼地を開拓した地域ですから、道路と田んぼの高低差がほとんどないような状況ですので、今の時期、上空から新発田を見ると、湖面に町がポット浮いたようなそんな印象を受けます。それゆえにゲリラ豪雨には耐えられず、毎年のように一部の地域で床下浸水が発生しています。一方では、水不足で代かきもできないという記事が載っておりました。新発田も少雪でしたので、夏の懸念がないわけでありませんが、今のところ春の作業に支障をきたすような水不足ということはないようであります。

○今月、北信越市長会の会長を拝命いたしました。まずは、能登半島地震で被害に遭われた地域の皆さんをしっかりとサポートしていきたいと思っております。これからはワンカントリーの時代からワンエリアの時代に入るわけでありますので、隣人としてしっかりとお手伝いをしていきたいと思っております。先日、北信越市長会の総会があり、珠洲市、羽咋市、輪島市の市長さんからお礼のご挨拶をいただきました。珠洲市の市長さんは涙声になるようなそういう弁でありました。このことは、災害の大きさを物語っていると捉えております。

○今、地方都市で喫緊の課題は、やはり人口減少対策だろうと思っています。このたび、人口戦略会議が７４４の消滅可能性自治体を発表しました。平成２３年には、８９６の消滅可能性都市が発表され、ここに新発田市が入っておりましたが、最近の調査からは脱却したようであります。平成２３年の発表を受けて地方都市は、人口問題に取り組み、人口の取り合いをしたと

いうことです。以来１０年、奪い合いから何も生まれないということを学び、人口問題はワンカントリーでは処理できない、エリア、そして国、このレベルで取り組んでいかざるを得ないということを我々は学びました。これからは全国市長会そして北信越市長会を挙げて、この問題に取り組んで国を動かしていきたいと思っています。まずは保育料の完全無料化、そして学校給食の無料化です。これは地方都市だけでやることは不可能に近いので、国が手を差し伸べない限り、この問題は解決できないと思っております。

それでは、会見項目を説明いたします。
はじめに、「い～ばしょしばた」の開所についてです。

○当市では、ひきこもり状態にある方やそのご家族を支援するため、令和４年度に実態把握調査を実施し、また、社会福祉課に専門の相談員を配置し、実態の把握や一人ひとりに寄り添った伴走型の支援を行っております。

○この調査や相談員による支援の中で、相談窓口の充実や居場所づくりを求める多数の声を寄せていただいているところです。

○そこで、ひきこもり状態にある当事者や生きづらさを抱えている方が、自宅以外で安心して可能性を発見することができる多機能な居場所として、６月３日から、市直営の「い～ばしょしばた」を開設します。

○「い～ばしょしばた」は、ボランティアセンター内で月曜日から金曜日までの常設とし、ひきこもり相談支援員が１名常駐いたします。

○一人で過ごしたり、他の利用者と交流したり、常駐の相談支援員に困りごとを相談するなど、過ごし方は自由です。ひきこもり状態にある方が、何かを「したい」と望んだ時に、その望む資源や環境整備を提供できるようしっかりサポートしていきたいと考えております。

○居場所の開設が、社会とのつながりの回復や、社会的・経済的な自立を促し、また、自殺防止対策にもつながることを期待しております。

○誰一人として取り残さない、地域共生社会の実現に向けて、行政が主体となって、引き続き、ひきこもり支援に取り組んでまいります。

次に、蔵春閣イベント「閣びらき」の開催についてです。

○昨年度、「蔵春閣」が当市へ移築され、「閣びらき」と銘打ったイベントを開催したところ多くの方にお越しいただき好評だったことから、今年度も第２回「閣びらき」を開催いたします。

○昨年度は、蔵春閣を知ってもらうことに主眼を置き、蔵春閣の活用方法を PR するイベントとしましたが、今年度はこれを発展させ、まちづくりに取り組む団体と連携し、複数のイベントとの同時開催により、エリア全体の賑わいを創出いたします。

○新発田を代表する人気イベントの「寺びらき」をはじめ、諏訪神社の「社（やしろ）びらき」、王紋酒造さんの「蔵びらき」との同時開催により、蔵春閣の周辺で、素敵なものや美味しいものに出会えるマルシェや、お寺体験などの非日常も味わうことができます。

○さらに、市役所札の辻広場での雑貨販売などのイベントともスタンプラリーで結び、新発田駅前から市役所周辺までのまち歩きを存分に楽しめる２日間となります。

○「閣びらき」では、「寺びらき」などにお出でいただくファミリー層をメインターゲットとし、蔵春閣館内では、まちづくりゲームやプログラミング体験などで頭を使ってもらい、東公園では思いっきり体を使って楽しんでもらえるアトラクションを用意してお待ちしております。

○喜八郎翁を知らない子ども達にも、楽しみながら蔵春閣を身近に感じてもらいたいと思います。

○そして、個性と魅力にあふれる様々なイベントがつながり、しばたの街じゅうが「ひらかれ」、活気あふれる２日間に、是非多くの方にお越しいただきたいと思います。

次に、ぼうさいファミリーキャンプの実施についてです。

○防災教育の推進のため、主に市内の小学４年生を対象に、平成２８年度から防災キャンプを実施し、これまでにおよそ８千人の子どもが体験しております。

○当市の「防災教育アドバイザー」である、群馬大学の金井教授の調査や、子どもたちの感想から、体験した子どもたちの防災意識の向上が見て取れますが、一方で、それが家族の防災意識向上には必ずしもつながっていないという現状もあります。

○東日本大震災の時に、家にいた小学生が防災教育の成果を生かし、「津波は来ない」という祖父母を引っ張り出して助かった事例は、防災への共通認識の大切さを示すものです。

○そこで、家族が一緒に防災プログラムを体験することを通して、家庭における防災意識の向上を図る新たな事業を、新潟地震の発生から６０年を迎える６月１６日に、防災ファミリーキャンプとして、「あかたにの家」で実施いたします。

○キャンプ当日は、避難所の疑似体験や非常食体験、災害時に役立つ技能体験等を計画しています。

○本事業をきっかけとした家庭の防災意識の高まりが、地域全体の防災力の向上、さらには、防災活動を新発田市の文化の一部として定着させてまいりたいと考えております。

最後に、城下町新発田まつりの開催についてです。

○新発田市の最大行事である城下町新発田まつりであります。昨年からようやく行動制限のない通常の開催となり、昨年は「しばた総まつり！」を合言葉とし、市民のほか、多くの企業や団体にご参加いただき、露店への来場者も含め、期間中に延べ約１２万人の方々がお越しになり、活気あるお祭りになりました。

○やはり、この城下町新発田まつりの光景は、年に一度の非日常空間でありながら、市民の皆様にとっては普遍的なものであり、何事にも代えがたいものであると感じたところであります。

○今年も、8 月 25 日の「市街地花火と和太鼓の饗宴」から、8 月 29 日の「帰り台輪」まで、精一杯駆け抜け大いに盛り上げたいと考えておりますが、この「しばた台輪」は、享保１１年（1726 年）6 代藩主溝口直治（なおはる）公の命により誕生したものであり、諏訪神社の例祭でもある城下町新発田まつりは、新発田藩と諏訪神社によってかたちづくられたものであります。

○そこで、この度は、新発田市観光協会の新たな試みとして、全国的にも例を見ない、２枚を合わせると一つの絵柄となる、新発田まつり限定版の、新発田城の「御城印」と諏訪神社の「御朱印」を 8 月から販売する予定としております。

○今年の新発田まつりは、このような新たな試みも起爆剤としながら、キャッチコピーを「記憶と歴史に刻む」として、市民の皆様、市外からお越しになる皆様の記憶や「こころ」にしっかりと刻まれ、そして、城下町新発田まつり約 300 年の歴史にもしっかりと刻まれるお祭りにしたいと考えております。

本日お知らせする情報は以上になりますが、他にもお配りした資料のとおりイベントなどを予定しております。

報道各社の皆様におかれましては、一つでも多く記事に取り上げていただき、新発田市をご支援いただきますよう、よろしくお願いいたします。